

町長所信表明

令和6年12月13日

令和6年第7回南部町議会定例会

12月定例議会

1 はじめに

わたくしは去る10月8日告示の南部町長選挙で町民のみなさまのご信任をいただき無投票当選の栄誉をいただきました。町政に対する過去8年間の評価、次の4年間に対する叱咤激励と受け止め、安全安心な暮らしやすい南部町にむけて精進していく所存です。本日は12月議会の貴重な時間をいただき、町政運営の所信の一端を申し上げ議会をはじめ町民の皆様にご理解をいただきたいと思います。

さて、本年10月1日、私たち鳥取県民が長年期待した石破茂氏が第102代内閣総理大臣に就任し、11月11日には第二次石破内閣が船出したところです。30年ぶりの少数与党として厳しい国会運営が予想されますが、「地方の未来を創り地方を守る」、「地方こそ成長の主演」であるとの考えに立った地方創生2.0は石破内閣の最重要課題の一つであります。11月30日には、人口最小の鳥取県から日本が直面する人口減少問題への対策を考える「日本創生に向けた人口戦略フォーラム in とっとり～若者・女性にも選ばれる地方になるために～」が開催され、石破首相をはじめ人口戦略会議の三村議長や中国地方の知事、県内の若者や女性を中心に活発な議論が行われたところ

です。私も町村首長の立場でパネル参加をし、コミュニティ・スクールを通じた人材育成や、総合型地域スポーツクラブ「スポ net なんぶ」、JOCA、JICA による、ごちゃまぜと多文化共生の取り組み。なんぶ里山デザイン機構による「しごとコンビニ」での高校生サークルや新青年団の活躍を紹介しました。地方創生で生まれた南部町の3つの地域再生推進法人のユニークな取り組みに、有識者の皆さまからも多くの共感をいただきました。

今後喫緊の課題は、人口減少社会にあっても安全安心な人が輝く南部町であり続け、さらに充実発展させるための処方箋を見つけるための挑戦だと考えます。それをなんぶ創生2.0と呼びたいと思います。

2 三つのC

なんぶ創生2.0にあたって、わたくしは引き続き三つのC「つなぐ connect」「変える change」「挑戦する challenge」を政策理念に町政を進めてまいります。

南部町が誇る歴史や悠久の時を経て里人が紡いできた文化と、里地

里山を形成する集落、山林、農地などが調和した姿を次世代につなぐ。そのためには先人たちが時代の変化を果敢に取り込み挑戦してきた歴史に学び、人口減少社会、デジタル社会への変革をチャンスととらえ、持続可能な次世代に誇れるなんぶ暮らしの創造を進めてまいります。

3 なんぶ創生2.0への四つのK「くらし・教育・環境・活力」

(1) くらしに挑戦「安全すこやかに暮らすまち」

まず1点目には暮らしを守る取り組みを行います。物価高騰対策では、石破内閣の経済対策にスピード感を持って対応し、鳥取県とも連携し町民の暮らしを支えてまいります。

防災対策では、本年の能登半島地震そして能登半島豪雨、災害列島日本に暮らすための危機管理を取り組み直さなければなりません。具体的には、住宅の耐震改修に対する補助金制度を整え地震への備えを強化いたします。また、医療や買い物を支える公共交通をさらに便利にする必要もあります。小型電気自動車を導入することで狭い道にも適応できる小回りの利いた公共交通「バクシー」をめざしていきま

す。また、バクシーを高齢者の移動手段だけにとどめず、若者や子育て中の家族など、多様な使い方を通じて豊かななんぶ暮らしを実感いただくことも重要だと考えます。

町内各戸まで光ファイバー網がいきわたり、デジタル行政改革（DX）としてスマホで行政にアクセスする「テノヒラ役場」などを整備してまいりました。学校の欠席届や病院小児科の予約、行政広報やごみの収集日の通知など、便利さを実感された声もたくさんいただきます。しかし、一方で行政が遠くなったと感じる方もおられることも事実です。本年の衆議院議員選挙では全国で初めてオンライン投票立ち合いを行い、集落の皆さんからも好評だったとお聞きしています。デジタルで行政を改革するDXと行政職員が地域に出かけるアナログでの安心感を組み合わせ、安全すこやかに暮らすための「でかける役場」を推進します。

（2） 教育に挑戦「子育て・教育のまち」

2点目には教育です。人口減少の中で教育は未来への投資です。子どもたちのすこやかな育ちと高校生サークルや新青年団など、地域の発展に寄与する次世代人材の育成を進めます。また令和8年秋を目途

に、安全な保育環境のためにつくし保育園とさくら保育園を統合した新保育所の開園をめざします。運営に当たっては、これまで10年間にわたって指定管理者として管理運営を担っていただいた伯耆の国から公私連携協定に向けた申請をいただいていますので、今後議会の同意をいただき統合保育所の開園への準備を進めていきます。

近年全国で不登校の子ども数は増加しており南部町も同様です。その対策として、学校内での居場所やサポート体制を強化してまいります。また、中学校部活動の地域移行では、総合型地域スポーツクラブ「スポnetなんぶ」を中心とした受け入れ態勢を整備し、南部町型地域クラブ方式の実現を図ってまいります。

人生100年時代を豊かに過ごす学びの場として、生涯学習はますます重要になってきました。世代を問わず個人の培った経験や知識を社会に還元する支援など、図書館や公民館を核とした生涯学習の充実をめざしてまいります。

(3) 環境に挑戦「環境と共生のまち」

3点目は環境そして共生です。2020年10月、日本は、「205

0年カーボンニュートラル」を宣言しました。また、2021年4月には、2030年度の新たな温室効果ガス削減目標として、2013年度から46%削減することをめざし、さらに50%の高みに向けて挑戦を続けるとの新たな方針も示されたところです。南部町でも2020年3月二酸化炭素排出実質ゼロ宣言をおこないました。また、南部町第二次総合計画ではまちづくりの大黒柱に「共生」「協働」「環境」を謳いあげています。

GX（グリーントランスフォーメーション）を南部町で進めるために本年国から採択を受けた重点加速化事業を活用してまいります。エネルギーを地域で作ри、貯めて賢く使う脱炭素のまちづくりをさらに推進してまいります。暮らしに密着した冬暖かく夏過ごしやすい断熱改修などを総合的に支援する窓口を整備し、工務店や金融機関など関係機関が連携したきめ細やかな対応をめざしてまいります。

また共生政策では「人権が大黒柱のまちづくり」を南部町制施行以来から大切にしております。子どもから高齢者、男女、障がいのある方や外国人など、それぞれが、お互いに寛容で支えあう共生の地域社会づくりを推進してまいります。

(4) 活力に挑戦「産業振興と賑わいのまち」

4点目はまちの活力です。その源泉の一端は産業の振興にあります。今後も続く人口減少フェーズの中で、地域が活力を維持し続ける産業構造は地産外商だといわれています。国内産業であれば輸出であり、地域産業であれば輸出も視野にいたした地産外商戦略が必要です。その意味からも、南部町の農業には多くの可能性があります。地産地消を守りながら地産外商で攻めるためにも、フルーツロード構想を推進し農産物の販路拡大とブランド化を進め、あらゆる機会を利用した南部町農産物のトップセールスを行ってまいります。

果樹、特に柿のカメムシ被害は深刻で県と連携しながら防除ネット等の支援を行います。また、地元企業商店の成長支援と若者のスタートアップを応援することで定住促進を図らねばなりません。地方創生は産業界、官公庁、高専大学などの学术界・労働界・金融界・マスコミ界の連携が不可欠だといわれています。これに併せて地域再生推進法人である、なんぶ里山デザイン機構、JOCA・JICA、総合型地域スポーツクラブ「スポ net なんぶ」とも連携し、持続可能な地域社会づくりを進めてまいります。また、南部町の観光資源としてとっとり花

回廊や緑水湖がありますが、観光としての農業×歴史×環境を活用した取り組みにも期待しています。

人口問題の処方箋は簡単には見つかりませんが、特に集落機能を守り地域活力を維持する上で人材の確保は重要です。空き家、空き地の利活用を図りながらも、移住した方が地域コミュニティの中で活躍できる風土づくりも必要だと考えます。また近年注目される、週末居住者や季節居住者などの二地域居住者と地域の関係をつなぐ取り組み、さらに職場として南部町と関わる方や地域おこしインターンシップ、旅人やボランティアなど多種多様な人々を関係人口として取り込むなど、人つなぎによるまちづくりを進めてまいります。

4 むすびに

以上なんぶ創生2.0へむけた「暮らし・教育・環境・活力」の4つのKへの挑戦について申し述べました。時間はかかりますが、なんぶ創生は人づくり、人材育成だと考えます。そして人づくりは人つなぎから生まれるものではないかと考えています。18年の歴史を重ねた南部町コミュニティ・スクール、保育園から中学校までの10年を一気通貫にした「まち未来科」の学習。そして高校生サークルから新

青年団への活動など、南部町には人づくりの風土があります。この風土に、さらに多様な人材資源が重ね合わさった、「ヒトツナギ」による「なんぶ創生2.0」をめざしてまいります。

一つひとつの課題に向き合い、その課題を希望に変えることが政治の責任です。子どもたちや若者に希望ある未来をつなぐために全力で町政のリーダーシップをとってまいります。

町民の皆様、議会議員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げ所信表明といたします。